



バランスや配色などを考えて作品を創作する高校生

題材多彩花で表現

高校生 上位2人 全国へ
競技会 松 前

県内で農業を学ぶ高校生のフラワーデザイン競技県大会（県学校農業クラブ連盟主催）が22日、松前町筒井のエミフルMASAKIであり、14校26人が日ごろの練習の成果を競った。

生徒は各自テーマを決めて、12種約30本の花材を使い片付けを含めて1時間内に作品を制作。イメージを膨らませつつ、茎の長さや花の向きなど全体のバ

ランスや配色などを考慮し、個性豊かに仕上げていった。

2025年に全国大会に出場した野村高校3年の有間咲礼さん（17）は、地元西予市の大野ヶ原を題材に選んだ。フトイの茎にワイヤを入れ四国カルストの山並みを、カーネーションやバラで地域に住む人を表現。「地域の美しい自然や温かい人が好き。地元で就職したいと思っている」

と話した。

県フラワー装飾技能士会などの専門家3人が花材の扱い方や作品のデザイン性、創造性などを審査。上位2人は10月24、25日に佐賀県で開催される全国大会（全国産業教育フェア）に出場する。（尾崎麻貴）

主な入賞者は次の皆さん（○が全国大会出場者）。
【最優秀】○三瀬さやか（宇和）【優秀】○越智友咲（丹原）成松日有里（愛媛大附属）白石優葵（同）大中ほか（伊予農）井上惟（川之石）高岡愛華（同）二宮弥佳（北宇和）高橋和花菜（野村）